

できごと

令和2年12月2日(水)、「令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修」において、児童文学者・翻訳者の清水眞砂子先生に「子どもの本がもつ力」という演題でお話しいただきました。本紙にてその一部をご報告します(1~2ページ)。また、この1年の間に発表された子どもの本に関する賞とその受賞作を一部ご紹介します(3ページ)。

お知らせ

【「新刊サロン」動画配信中!】

当館子ども図書研究室では、毎月200冊から300冊の新刊を受け入れています。「新刊サロン」ではその中から、職員が子どもの本の紹介をします。新刊サロンはこれまで子ども図書研究室を会場に開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためYouTubeで動画を配信しています。期間中はどなたでもご覧になることができます。第5回の配信は令和3年4月27日(火)午後5時まで行っています。

【視聴方法】

下記QRコードまたは当館ウェブサイトからURLをクリック

【申込】不要

【お問い合わせ】静岡県立中央図書館 資料課

電話：054-262-1243

FAX：054-264-4268

メール：webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

県立中央図書館公式 YouTube チャンネルに移動します。※配信期間にご注意ください。→



清水 眞砂子氏 講演 『子どもの本がもつ力』

世間で評判になっているし、まじめな本ではあるようだと大人がよかれと願って買い与えた本が、当の子どもに生涯影を落とすことがある。私にとっては絵本『マッカーサー元帥』がそうだった。この体験については『どんな絵本を読んできた?』(平凡社)に記したのでそちらをお読みいただくことにして、例えば、工藤直子さんの『のはらうた』にしても人気はあるが、私は一言でいえば商品としての「詩」だと思う。それと比較して、高知県児童詩研究会の『やまもも』には、子どもたちの生のくらしからほとばしり出てきた詩にあふれている。子どもが生きる中で発した生の声は、その詩を作った子どもも、その詩を読んだ子どもも、心底、解放するにちがいない。

子ども時代の私の本をめぐる体験のひとつに、岩波少年文庫の『世界をまわろう 上・下』(絶版)との出会いがある。この地理の本は、世界にはどこにも人がいて、国境を越えて誰ともつながることができるという信念を、幼い私の中に築いてくれた。また、ディケンズの『クリスマス・キャロル』は、スクルージのあまりのけちん坊ぶりに、自分の中の「けち」の基準が大幅に変わったし、『ああ無常』ではジャン・バルジャンが救われなければ自分は生きていられないと、必死になった。しかし、自分がこれらの本にどんなに心を動かされていたかには、周りの大人たちは全く気付いていなかったと思う。このように教科書では知りえないものを子どもたちは多くの本で知る。大人が準備した「良いもの」だけでは得られないものを、子どもたちは本の中から受け取り、そこで感じた感情すべてを本は受け入れ包み込んでくれる。

よく「本を読むところが豊かになる」と言われるが「豊か」とは何をもって判断するのか？岩波新書の『現代秀歌』に「われよりも熱き血の子は許しがたく少年院を妬みてみやり」という短歌がある。この社会のルールを破る少年を、うらやましいと思ってしまう自分。こういう気持ちを文字にして伝えてくれることで、子どもたちは、自分の中にもそういった気持ちがあることや、そういうことを思う人がいることを知ることができる。多くの作品に触れた子どもたちが、心のありようを深く知ることが出来るのではないだろうか。



また、「読書すると賢くなる」と思われているが、自分の心を見つめて、それが嫌なものであろうと受け入れ、コントロールしていくことの方が、賢くなるより、よほど大切なことなのではないかと思う。「いい子になってほしい」という思いは大人からの押し付けでしかない。大人が「心が豊か」と言う時、そこには、たとえば、己の中の「魑魅魍魎」も含まれているのだろうか？「決まりを守っていい子になる」ことが「豊か」というならそんな豊かさは要らないとすら思う。十数年、主として短大で学生を見てきたが、学生はほうっておくと絵本を絵が「かわいい」か「かわいくない」かで判断する。学生たちは赤羽末吉の描く桃太郎より、お爺さんお婆さんにおとなしく世話をされている「育児絵本」の桃太郎をかわいいと好む。つまりは、大人のいいなりになる子どもをかわいいと言うのである。



サトクリフの自伝『思い出の青い丘』には、彼女が妻のある男性に恋をした折の体験が書かれている。周りの人々、ことに父親は傷つくからと猛反対をする。が、サトクリフは後年、当時を振り返り「父には私にも傷付く権利があることがわかっていなかった」と書いている。私は毎年学生たちにこのサトクリフの言葉を贈ってきた。



南 アメリカの民話集『空にのこったおばあさん』（絶版）を翻訳したとき、この民話集の背景になっている時代を調べていて、私は真っ青になった。きっかけは、この英語版の民話集の話がすべて「long, long before」（agoではなく）で始まっていたからだったが、この翻訳の仕事は、私に、それまで学校という場所で学んできたことの総点検を迫ることになった。それは、自分の立ち位置の総点検でもあった。



「学校は“社会”のこぼれを教える。いやもっと露骨にいうなら“植えつける”場所」と、高橋源一郎はついにその著『「読む」ってどんなこと？』（NHK出版）で言い放った。だとすると学校図書館は学校内で唯一、個が解放される場所かもしれない。その場所でまで「元気で明るいよい子」を求めないでやってほしい。



同じことは子どもの本の活動をしている市民（多くは女性だが）にも求めたい。自分が子どもの頃何を思っていたかを忘れていた大人は結構いるのではないだろうか？文学は自分にマイナスの感情がひそんでいることにも気づかせてくれるもの。大勢の子が喜ぶ本もいいが、そっとひとりである子どもに、必要な本を、図書館関係者はさりげなく差し出してやってほしいと思う。



私 事だが2018年の12月に入院、小さな手術を受けた。夜半、立ちのぼってくるオリオン座を見ながら、私は毎晩、古代ギリシアの人々に感謝した。彼らがこの星の並びに物語を紡いでおいてくれたおかげで、私は今、天空に戦士の像を見ることができる。時空を超えて、人と人をつないでくれる。そんな物語に私たちは囲まれて暮らしている。なんと幸せなことだろう。その手助けが仕事だなんて、図書館で働く方は、これまた、なんと幸せなことだろうと思う。（報告 水井）

子どもの本に関する賞

この1年の間に発表された子どもの本に関する受賞作をご紹介します。大賞メインのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。

紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もなお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞事典』（日外アソシエーツ刊 2009年）や『海外文学賞事典』（日外アソシエーツ刊 2016年）などで確認することができます。

種 類	2020年 受 賞 作 品
コ ー ル デ コ ッ ト 賞	『The Undefeated』 Kadir Nelson／絵（Houghton Mifflin Harcourt）未邦訳
ニ ュ ー ベ リ ー 賞	『New Kid』 Jerry Craft／著（Quill Tree Books）未邦訳
ケ イ ト ・ グ リ ー ナ ウ ェ イ 賞	『Lark』 Anthony McGowan／著（Barrington Stoke）未邦訳
カ ー ネ ギ ー 賞	『Tales from the Inner City』 Shaun tan／著（Arthur a Levine）未邦訳
日 本 絵 本 賞	大 賞：『くろいの』 田中 清代／さく（偕成社） 絵本賞：『なまえのないねこ』 竹下 文子／文 町田 尚子／絵（小峰書店） 『金の鳥：ブルガリアのむかしばなし』 八百板 洋子／作 さきた きよこ／絵（岩崎書店） 『ばんっさん』 たなか ひかる／作（ポプラ社） 翻訳絵本賞：該当なし 読者賞：休止
坪 田 譲 治 文 学 賞	『あららのはたけ』 村中 李衣／作 石川 えりこ／絵（偕成社）
講 談 社 絵 本 賞	『なまえのないねこ』 竹下 文子／文 町田 尚子／絵（小峰書店）
産 経 児 童 出 版 文 化 賞	『徳治郎とボク』 花形 みつる／著（理論社）
日 本 児 童 文 学 者 協 会 賞	『アドリブ』 佐藤 まどか／著（あすなる書房）
日 本 児 童 文 学 者 協 会 新 人 賞	『一富士茄子牛焦げルギー』 たなか しん／作・絵（BL 出版）
三 越 左 千 夫 少 年 詩 賞	『へんてこあそびうた』 岩佐 敏子／著（リーブル） 『はてなとびっくり』 大楠 翠／著（銀の鈴社）
日 本 児 童 文 芸 家 協 会 賞	『蝶の羽ばたき、その先へ』 森埜 こみち／作（小峰書店）
児 童 文 芸 新 人 賞	『あの子の秘密』 村上 雅郁／作（フレーベル館）
児 童 文 芸 幼 年 文 学 賞	『ムカッやきもちやいた』 かさい まり／さく（くもん出版）
小 学 館 児 童 出 版 文 化 賞	「さわるめいろ」シリーズ 村山 純子／作（小学館） 『昔はおれと同年だった田中さんとの友情』 榎月 美智子／作（小峰書店）
ひ ろ す け 童 話 賞	新型コロナウイルスの影響を鑑み、開催を中止。
五 山 賞	延期(2021年に2年分審査予定)
小 川 未 明 文 学 賞	『シャ・キ・ベシュ理容店のジョアン』（ぼくに色をくれた真っ黒な絵描き） 北川 佳奈／作（学研プラス）
野 間 児 童 文 芸 賞	『朔と新』 いたう みく／著（講談社）
けんぶち絵本の里大賞	『ころべばいいのに』 ヨシタケ シンスケ／作（ブロンズ新社）
日産童話と絵本のグランプリ	童話：『なすびは何色?』 山本 泉／作（BL 出版）
静岡書店大賞児童書・新作部門	延期
静岡書店大賞児童書・名作部門	延期

知識



『うちにかぶトガニがやってきた!?' 生きてる化石とすこした1年と2か月』
石井 里津子／文
学研プラス
2020年7月

「生きてる化石」と呼ばれるカブトガニの観察会に家族

で参加した小学校3年生のハツは、ひょんなことから卵を持ち帰り孵化させることを薦められ、自由研究のテーマにする。カブトガニを「自然から預かった大事な命」として大切に育てる様子がとても楽しく、またカブトガニの成長やその生態がよく整理され読み手にわかりやすく説明されているため、この家族と一緒にワクワクしながら読みすすめることができる。著者は地域文化や農業農村についての著作もあるハツのお母さん。【小学校中学年から】 (安田)

読物



『ハナコの愛したふたつの国』
シンシア・カドハタ／作
もりうち すみこ／訳
小学館
2020年7月
かつて米ロサンゼルスで

レストランを営んでいたハナコ達一家は、大戦中に収容所に入れられた。何もかも奪われた両親はアメリカで暮らす自信をなくし、戦後、一家は父の故郷広島へ帰国する。荒廃した土地、家族の生活を守るだけで精一杯の日々、戦争孤児の兄妹との出会い……、ハナコはふたつの国の間で揺れる。祖父母は貧しいながらも愛情をかけて世話してくれたが、小作人では子や孫に遺せるものがなく、両親はそれにも不安を覚える。史実を元に書かれた物語。著者は日系3世。【中学生から】 (眞子)

読物



『歌がにがてな人魚』
ルイス・スロボドキン／作
小宮 由／訳
瑞雲舎
2020年7月

人魚の国で一番有名な人魚の

学校に通うシンシアは歌だけが最大の苦手だった。あまりにひどい歌声のため、音楽の授業中は歌わせてもらえない。先生はシンシアの声をいかす方法を考えていた。そんなとき、あらしがきて、迷い込んだ大きな船が人魚たちに近づいていた。シンシアはその日はがまんしきれず、大きな声で校歌を歌うと、その声にびっくりして船は逃げていった。それ以来、霧がたちこめてくるとシンシアは校歌を歌わせてもらえるようになった。しかもひとりっきりで。

【小学校低学年から】 (木村)

絵本



『パンフルトになった木』
葉山 ひろみ／文 こがしわ かおり／絵
少年写真新聞社
2020年8月
遠い昔、カイツカイブキという木は小学校の校庭でこどもたちの歌声を楽しくきいていた。

ところが、町にサイレンが鳴るようになると、こどもたちはいなくなってしまう。ある夏の朝、太陽のような光と凄まじい音がして、気が付けば景色は一変、人々が死んでいく中で木も燃え、黒こげになってしまった。しかし、戻ってきたこどもたちの歌が木を励まし、春に新しい葉を出す。時が経ち、弱った木が切り倒されることになる。校長先生は木をこどもたちに繋げたいとパンフルトにし、生まれかわらせた。【小学校中学年から】 (水井)